

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

**イタリア 急性青酸中毒で牛 50 頭死ぬ、干ばつで飼料に有害物質濃縮**

2022 年 8 月 19 日 23:38 発信地: ソンマリバデルボスコ/イタリア [ イタリア ヨーロッパ ]

【8 月 19 日 AFP】イタリア北西部ピエモンテ(Piedmont)州トリノ(Turin)近郊にある牧場で今月、成長初期段階のイネ科の植物ソルガムを飼料として与えた牛が急性青酸中毒を起こし、約 50 頭が死んだ。通常は起こりにくい事故だが、干ばつによって有害物質の濃度が高まったとみられている。

地元の動物愛護団体によると、ソンマリバデルボスコ(Sommariva del Bosco)の牧場で 6 日、イタリアのブランド牛の一つ、ピエモンテ牛約 50 頭が、急性青酸中毒でごく短時間のうちに死んだ。

ソルガムには、青酸配糖体であるデュリンが含まれているが、成長とともにその量は減少する。だが現地では干ばつが続いているため成長が阻害され、デュリンの濃度が高まったとみられている。

同国北西部の動物予防試験所(IZS)の獣医師ステファノ・ジアンティン(Stefano Giantin)氏は「干ばつによってソルガムに多量のデュリンが含まれていたと考えている」と述べた。

急性青酸中毒では、摂取から 10~15 分で呼吸や神経、筋肉などの障害が現れ、15~30 分後に死に至る。現地で採取したサンプルからは、高濃度のデュリンが検出された。

ピエモンテ州の他の 3 か所の牧場でも牛に同じ症状が現れたため、専門家はチオ硫酸ナトリウムを注射する治療を施し、約 30 頭の牛を救うことができた。(c)AFP

**イタリア 観光客に水くみ場の利用呼び掛け プラ削減の取り組み**

2022 年 7 月 31 日 17:49 発信地: ベネチア/イタリア [ イタリア ヨーロッパ ]

【7 月 31 日 AFP】「ペットボトルは超迷惑」——イタリア・ベネチア(Venice)のサンマルコ広場(St Mark's Square)に近い静かな中庭の水くみ場で、ボトルに水を満たしていた少女が言う。米アリゾナ州から家族で旅行にきたというキーラさん(11)は「海もどこもかしこもプラスチックだらけ」と話す。横にいた父親も「長期的旅行だと特にたくさん使ってしまう」と付け加えた。2 人も再利用可能なウォーターボトルを使うべきとの意見だ。地元当局によると、毎年数百万人が訪れるベネチアでは、観光客が出すごみが全体の 28~40%を占めるといふ。これには大量のペットボトルが含まれている。こうしたごみ問題への対策として、当局は観光客に対し、市内の広場や路地に点在する水くみ場で水をボトルに詰め、飲用するよう呼び掛けている。

**■水くみ場マップ**

ベネチアの都市計画に携わる建築家のアルベルト・キネッラト(Alberto Chinellato)氏は「この歴史的都市には全部で 126 か所の水くみ場があります。見つけるのは簡単です。ほぼ 100 メートルごとにありますから」と説明する。水道事業者ベリタス(Veritas)が、最寄りの水くみ場を示す地図アプリを提供しているの、探すのはさらに容易だ。キネッラト氏は「無料の水くみ場の利用を促進することで、ごみは確実に減ります。(中略)この歴史的都市に持ち込まれるプラスチック製ボトルの数も減り、汚染や輸送も削減されます」と述べた。

市の中心部にあるホテルフローラでは、経営者のジョエーレ・ロマネッリ氏がプラスチックの削減運動に一役買っている。宿泊客に水くみ場の利用を促しているのだ。「ベネチアの泉を青い小さな水滴マークで表した地図を作りました」チェックインの際、宿泊客はベネチアの「おいしい水」について説明を受ける。「『ベネチアの水は飲めるんだ』と驚かれる方もいます」「宿泊するお客さまも、ほんの小さな行いでプラスチック削減運動に参加できます」とロマネッリ氏。ベネチアを訪れる「途方もない数の観光客」にいくつかの責任感を持ってもらうことができると語った。(c)AFP/Gildas LE ROUX

**この号の内容**

- 1 急性青酸中毒で牛 50 頭死ぬ、干ばつで飼料に有害物質濃縮
- 2 観光客に水汲み場の利用呼び掛け プラ削減の取り組み
- 3 EU 支部だより

- ・トリノ近郊の牧場
- ・多量のデュリン
- ・ベネチア 環境客 ゴミ



- ・オミクロン
- ・感染者 ID
- ・支援物資への感謝

**EU 支部だより - ついに・・・**

8 月初め、ついにオミクロンに感染してしまいました。手洗い、うがい、消毒と注意していたのですが、近ごろ電車に乗る回数が増えたことが原因かなと思っています。急に喉がイガイガしたかと思ったら、熱がどんどん上がりだしました。運よくすぐに PCR 検査を受けることができたものの結果は 2 日後。その間も熱が上がりがり 38.8 度までいきました。検査結果は陽性！つ・ついに、私も……。ちょっとショックでしたが、とにかく自宅待機で治すしかありません。薬を飲んでも熱が下がったり上がったりを繰り返し、喉の痛みからかとうとう声が出なくなりました。保健所の連絡を待っていましたが、感染者 ID がきたのが 4 日後。それを受けてもうろうとしながら市と府に支援物資の依頼をしました。次の日第 1 弾の支援物資が届いたときはこれで生き延びられる(ちょっと大げさかな)とうれしかったです。中でも特に、企業の好意で入れられていた菓子とそれに添えられていた「がんばって・おだいじに」のメッセージが心に染み入り本当にうれしかったです。また次の日は簡易食料が届き、またその次の日は府からの冷凍食品が届きました。さらに 2 日後には 2 回目の冷凍食品が届きました。自宅で一人療養する中、今回の支援物資は本当に支えになりました。それは食事をして栄養をとると言うことはもちろんですが、誰かが私を見守ってくれているという感覚が心の栄養になり回復を後押ししてくれたと強く感じています。本当に感謝しかありません。今は回復しましたが、まだ咳と声枯れが続いています。後は日にち薬ですね。今回支援物資の大切さと優しさが身にしみた松原でした。

